

大学の地方入試にみる学生獲得戦略の分析

本川 結貴¹, 貞広 齋子²

¹千葉大学 企画総務部, ²千葉大学 教育学部,

連絡先: <sadahirosa@faculty.chiba-u.jp>

(1) **目的:** 大学が学生を確保するために行われているのが入学者選抜試験(以下, 入試)である. 大学の入試は試験実施大学を試験会場とし, 受験生が会場へ赴くのが一般的であるが, いくつかの大学では, 大学のキャンパス外で入試を実施する方法も採用されており, 長期的には増加傾向にある. こうした入試方法を大学入試フォーラムの大学入試用語集では「地方入試」と呼び, 「大学側が全国各地に出向いて試験場を設け, 実施する試験」としている. 本研究では国公立大学が実施した 2005 年~2016 年までの個別学力検査における地方入試実施状況を分析し, 会場設置のパターンやその特徴などから, 地方入試実施大学の受験生獲得戦略の傾向や特徴を明らかにする.

(2) **方法:** 本研究を進めるにあたり, 旺文社『教育情報センター』入試情報で公表されている 2005 年, 2006 年, 2009 年から 2016 年までの資料(以下, 旺文社の資料)を基礎資料として使用し, 地方入試実施大学の傾向や特徴を明らかにするため, 旺文社の紙媒体データ資料を電子データ化した. 次に, 大学のホームページや学生募集要項等を活用し, 地方入試実施大学(72 か所)の住所, 試験会場(196 か所)の住所をアドレスマッチングサービス(東京大学空間情報科学研究センター)にて緯度経度に変換し, 測量計算サイト(国土地理院提供)にて大学と地方入試実施大学との直線距離を算出した. また, クラスタ分析にて, 地方入試実施大学のパターンの分析を行った. 更に, 大学が所在する地域を踏まえた地方入試実施状況を分析するため, オープンソフト QGIS ver. 2. 18. 13, 国土交

通省の国土数値情報を用いて, 大学の所在地及び会場並びに地域別のデータから地図化し, 視覚的分析を行った.

(3) **結果:** 地方入試を実施する国公立大学は地方大学が多く, その中でも公立の大学の場合は比較的規模の小さい大学が実施していることがわかった. 加えて, 学部系統, 倍率の結果別に分析すると, 概して自然科学系の学問系統の, 当該大学内外と比較して低い倍率を持った大学で地方入試は実施されることが明らかになった. また会場設置においては, 国立大学と公立大学とで設定エリアに違いが見られ, 国立大学では全国規模での実施がなされる傾向がある一方, 公立大学では所在地域から大きく広がらない地域(所在都道府県の隣接都道府県等)で実施する特徴が見られた. クラスタ分析では, 4 つのパターンが析出され, それぞれの特徴が明らかになった. QGIS による分析では, 2017 年度にかけ地方入試の実施主体は, 受験者獲得が難しい地域にある大学から, 受験者を比較的安定的に確保できる地域にある大学へ拡大し, 会場設定では, 受験者が集まりやすい地域への会場設定に加え, 大学から会場までの距離を考慮した会場設定へ変化し, 地方入試の戦略に変化が見られた. 以上のことから地方入試の戦略は, (1) 受験者の確保が難しい地域で, 受験者数の確保を行うため実施されてきた経緯がある一方, (2) 近年は比較的受験者の確保がしやすい地域に所在する大学で, 受験者の質を確保する目的で実施されるようになるなど, 地方入試をめぐる大学の戦略が二極化していることが明らかとなった.

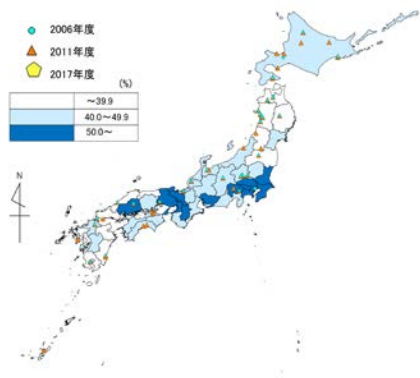


図 1: 地元進学率と 2006 年度/2011 年度比

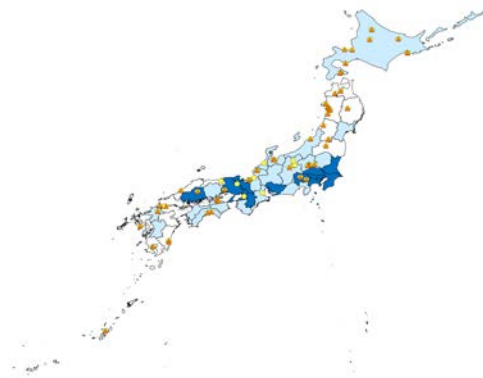


図 2: 地元進学率と 2011 年度/2017 年度比